

<<東北魂>>を鼓舞する
電子新聞

発行所 株式会社遊無有
〒207-0005
東京都東大和市高木3-315-1-2-2
http://www.yumuyu.com/
e-mail:yumuyu@wj8.so-net.ne.jp

東北復興

Rising up , TOHOKU!

無料

第97号

毎月発行

発行 2020年(令和2年)6月16日 火曜日

2020年(令和2年)6月16日 火曜日

【当新聞発行責任者 兼編集長兼記者紹介】

【砂越 豊】

宮城県生まれ、66歳、新人の歴史ドキュメンタリー作家。現在、日本刀の真のルーツを発掘した映像【鬼がつくった日本刀】を上映計画中だが、新型コロナウイルスによる延期を余儀なくされている。趣味は古代史・歴史文化研究。埋もれた歴史を掘り起こすことを標榜。



新型コロナ禍後の「新東北産業論」 いつまでもコロナにかまけてはいけない！ 比較的被害が小さい強みを活かせ！

いまがチャンス

世界も日本も新型コロナウイルスで大騒ぎしている。その騒ぎは当分収まらないであろう。まだ感染が本格化していない地域が残っているからである。そのため年内終息はどうかやっても無理で、あと二年は必要なのだろう。

筆者としては、現段階で感染者数及び死亡者数が多いアメリカやヨーロッパ、ブラジルなどに比べると、日本はその数も圧倒的に少なく、少し大げさに騒ぎすぎではないかと思うのだが、いまそうしたことを発言しようものなら猛烈なバッシングを受けそうなので、これ以上は控えようと思う。今般の主題はそれではないから無用なトラブルは回避することにする。話題を変えよう。

そのチャンスは、コロナ騒ぎに惑わされて見逃すかそれとも大きなチャンスと見抜いてつかむかで、今後の東北の運命が大きく左右されると直観で感じるのである。

数十年も継続する人口減少、経済の長期低迷、一次産業の長期衰退など、東北にはネガティブな話題には事欠かない。さらには、そうした数多くのネガティブ情報で嫌気がさして、ますます沈滞していき、東北の活力を削ぐ悪循環。

しかし、いま、それらの課題を解決して、大逆転発想で大きな成果を生み出せる可能性が生まれつつあると考える。

新型コロナ禍被害が少ない日本のなかでも、さらに被害が少ないと推察される東北だからこそ、この禍というピンチをチャンスに変えて行けばよいのではないかと思うのである。

行き過ぎたグローバル リズム修正

まず、ほとんどの人が賛同すると思うが、これまでの行き過ぎたグローバルム、国際分業は修正され、まったくなくなるわけではないが、かなり後退するであろうとの予測が大勢である。

コストの安い海外へ出た産業は、どの国も国内回帰を促すだろう。

特に中国には安い人件費を目指して大挙して進出していたが、いまは人件費は高騰して、コストダウンは期待できにくくなっていることも国内回帰を促進するだろう。

これは当然の流れであるが、東北にはどういった効果が見込めるか？

もし積極的に東北全体で海外に進出した企業の国内回帰を受け入れる魅力的な優遇措置を取るならば、かなりの効果が見込めるのではないかと、そうした優遇措置

などは当然であるが、企業にとって一番大事な人材確保。これを東北が支援していけば効果は絶大である。

人口減少が続く東北にそれが出来るかと問われれば、あえて出来るかと返答しよう。

東北の若手労働力確保の秘策

新型コロナ禍では、人口が減少し続け、過疎化が進む東北の感染者数が圧倒的に少なかった。これは岩手県が感染者ゼロ更新でニュースになったことで、広く知られることとなった。

東北はウイルスに対して安全だと自然に宣伝してもらっているようなものだ。また、近年は、大都市圏で暮らすメリットも少なくなってきた。

給料は上がらず、通勤地獄で、住居は高い、密度が高くて何かとイライラする。始終緊張を強いられる大都市生活。そうしたメリットは、雇用機会の多さと給料水準の高さで我慢してきたのだが、近年そのメリットが消滅しつつある。

ここで、東北が、住居も格段に安く広い、密度も大幅に薄い、通勤地獄など聞いたことがない、ウイルスにも強いとアピールし、さらに東北への移住優遇策も追加したらどうなるか。

離れ業のように、東北に若手人材が集まり、国内回帰企業の労働力需要をまかなえるという展開に持ち込める可能性が出てくる。

「鬼がつくった日本刀」
約千三百年前、東北の地から全国に連れ去られた多くの奥州刀鍛冶たちがいた。しかし「鬼」と蔑まれ、苛酷な労働を強いられながらも、数々の名刀をつくり続けた。だが古代から中世にかけての日本刀の名工といわれた刀工のほとんどが奥州刀鍛冶の流れを汲んでいたにもかかわらず、その後すっかり忘れ去られてしまった。



埋もれた歴史を発掘するドキュメンタリー
【鬼がつくった日本刀①】

田舎の閉鎖性が移住のネックであったが、それもなにか工夫して、移住組、半移住組、一時的移住組など多様な移住者を受け入れるのである。

この一見離れ業のような施策により、東北の産業が活性化し、人口も増大し、同時に過疎化対策にもなるという何重もの効果が期待できる。

医療安保

また今般の新型コロナ感染症対応現場では、医療用のマスク、防護服、人工呼吸器などが、ほとんど中国に依存していることが判明した。

その依存率は異常であり、百パーセントに近いものであった。そのことにあらためて世界は驚き、同時に大きなリスクをも感じたであろう。その反動は当然予想され、今後はどの国も最低限の医療用品、防護服、人工呼吸器に始まり、関連する医療用品を国内生産に切り替えていくだろう。

海外もそうであるが、すでに国内でもそうした動きが出ています。東北はのんびりしているが、目ざとい他の地域はすでに誘致合戦をはじめている。

もうこれから東北が乗り出しても手遅れである。ではどうするか。

他の地域でやらないことをやればよい。

マスクは、宮城県内の企業が着手したので、それは潰しあいを避けて、例えば、国民皆保険システムを世界に拡大していく事業などはどうだろうか。

新型コロナ感染の少ない原因のひとつに、日本の国民皆保険制度があり、これを他国でも段階的に導入できるようなプログラムを開発して売り込む。これは目のビジネスではなく、世界の人々の幸福につながる意義ある事業である。

世界にもまだ存在しない事業であるから、そうした有能な人材を引っ張ってくることも必要である。ぜひこうした分野での活躍を期待していきたい。

あとは、ワクチン開発なども候補である。扱い品目が品目だけに、安全対策も必須だが、世界に貢献できる事業であり、有望な事業である。

食料安保

それと、以前から問題となっていたことであるが、日本の代々の政権がアメリカの農産物輸出の圧力に負けて、食料自給率を徐々に下げて、いまでは食糧安保が危険に晒されるレベルまで至っている。

これを食料安保という標語を旗印にして改善していく。そこに東北が大きな役割を担う可能性を拓くということがある。

筆者は、東北にはまだ気づいていない食料資源がた

くさん眠っていると考えている。素材の種類もそうであるが、特に、食料用素材の加工面では未開拓エリアが広がっており、何とかして欲しいと思う。

ただ、一方で、食料生産という一次産業に携わるのは零細の個人高齢者である。個人で負える範囲でしか設備投資は出来ないし、最新の技術導入にも消極的である。従来通りの手法をほぼ何も変えずに継承するのみではないか。

そのため、東北の一次産業の付加価値率はずっと低いまま推移し、かつその事業規模はどんどん縮小している。

食料生産従事者の平均年齢はとくに六十五歳を超えている。あと十年もしないうちに、ほとんどの従事者がいなくなるだろう。その後は、誰もいなくなってもよいのか。

それを傍観したまま、放置したままなのはいかげなものかと思う。

東北の食料品付加価値向上

また、この食料生産における付加価値率の低さは、これまで当新聞でも何度か取り上げてきたが、これを解決しつつ、増産する方向に大きく舵をきることが必要なのは言うまでもない。

ここでも、国内外を問わず、東北以外からの有能な人材引き入れが必要である。

農業政策も、そろそろ看板だけの米作を見直し、もっと別の作物を育成する方向に転進しなければならぬのではないかと。耕作放棄地問題も何とかしなければならぬ。補助金をもらい、放置したままではどうにもならない。

また、漁業も、養殖漁業に舵をきらなければならぬのではないかと。毎年のように、気候変動で魚が取れなくなると嘆くだけでなく、養殖が主体の北欧漁業に習い、高収入の漁業家を育成すれば、若い人材獲得も夢ではないのではないかと。

いまは魚の養殖は世界の主要な潮流である。それを国内では東北が先駆けとなろうという試みである。どうであろうか。

災害対策事業

東日本大震災から早や九年が経過した。まだその傷は完全には癒えていないだろうが、前向き、ここで、この大災害の体験を活かしての新事業を模索してはどうか。

地震対策、津波対策、普段からの防災対策など、一見して事業になりそうもなさそうところから「事業化」を考え出せる人材が求められている。

津波予知システムなど、必要な国や地域はあると思うがどうだろうか。

完全な地震予知は現在の科学では不可能と言われ

埋もれた歴史発掘ドキュメンタリー【鬼がつくった日本刀】の上映日程 3度目の延期のお知らせ

東大和市会館ハミングホール 「小ホール」
 (〒207-0013 東京都東大和市向原6-1)
 西武拝島線「東大和市駅」より徒歩7分
 2020年7月4日(土) 上映開始10:00
 2020年7月22日(水) 上映開始19:00

* 5月27日の三度目の延期での代替日程

埼玉県 SKIP CITY 彩の国ビジュアルプラザ 映像ホール
 (〒333-0844 埼玉県川口市上青木3-12-63) JR西川口駅よりバス9分
 当面の間、上映未定

年内に、宮城県での上映会開催予定
 上映時間：約60分
 入場料：500円(税込) 全席自由席
DVD - 3月下旬販売開始
 3300円(税込) 送料無料
解説本(カラー) - 5月販売予定
 問合せ先：株式会社遊無有
 mail: y.s.yumuyu@ozzio.jp

ているが、発生確率がある程度読めるものはあることを耳にする。そうしたものをさらに研究して事業化できないものか。

待ちの企業誘致からの大転換

何十年来というものの、東北の産業政策の主要なターゲットは、大企業の工場誘致であった。今後は、こうした工場誘致が無くなりはないが、従来のように期待できない。

日本が世界に伍していくには、従来型の大工場と労働者という枠組みからは脱出しなければならぬ。この点で日本は遅れている。その遅れた日本を、従来の枠組みで待つという選択肢に未来はないと断言し

国を待っていては遅れるだけ

また、「国」の支援、助成金などがなくとも出来ないと考え方もすつぱりと捨てた方がよい。「国」とくくられる組織やシステムはかなり時代遅れである。その時代遅れと心中するのならともかく、そうでないなら、きつぱりと決別して、別の資金源を求めて新分野開拓を目指すべきだと考える。



埋もれた歴史を発掘するドキュメンタリー【鬼がつくった日本刀②】



第70回

水産業再興のための 料理レシピ紹介

【真ほっけ一夜干し 一焼き魚】



郷土料理愛好家
松本由美子氏



6月は「ほっけ」が美味しい季節です。ほっけを開き、適量の塩を振りかけ、5、6時間ほど風に干します(松本流)。適度な干し加減で、身も柔らかく甘みと脂が滲み出て、ほどよい旨みが楽しめます。(市販品は、干し過ぎて身が固いものや、冷凍が多いですから一松本談)

脂が多い縞ホッケに比べ、真ホッケはしつこすぎない適度な脂のノリ。身が締まって味が濃いのが特長。魚体も一般的には縞ホッケより真ホッケのほうが小さい。小ぶりだけれど高値さそうです。

ほんに恋しや、東北地酒！飲みたい、呑みたい・・・！

【依然として第43回三陸酒海鮮会代替日程未定のまま】

延期を余儀なくされた3月14日の三陸酒海鮮会は、依然として代替日程が未定のまま推移しております。美味しい東北地酒への恋しさが狂おしいほどに募っておりますが、みなさま、しばし我慢ですぞ！以前の写真画像のみで何とか耐えてください。またお会いできる日を楽しみに！





写真でお伝えする **東北の風景**
新型コロナウイルス禍自粛症候群 **「対応薬」** 写真撮影 尾崎匠



苦境の飲食業、観光業をどう支えるか

期限付酒類小売業免許のもらしたるもの

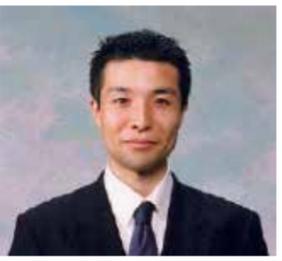
新型コロナウイルスの感染拡大は経済に深刻なダメージを与えた。とりわけダメージが大きかったのが飲食業、観光業であると言われる。このうち、飲食業については、緊急事態宣言が出され、不要不急の外出を自粛するよう要請が出されたことを受けて、外食や外飲みの需要は激減した。それまで公私共によく飲食店で飲食していた私自身、三月下旬以降、飲食店での飲食を取り止めていた。

仙台の場合、私も何度か行ったことのあるイギリス風のパブでクラスタール感染が発生した。店内客計八人が感染し、そこから二次三次、四次感染まで発生した。このような状況では、自分も知らずに感染し、知らずに感染させてしまうから分らない。そのようなことから、飲食店での飲食を

自粛していたのである。同様の対応をする人は多かったようで、感染拡大防止には寄与したのかもしれないが、一方で飲食店は来店者の減少に伴う売上減に悩むことになってしまった。私が時たま足を運んでいたアイリッシュパブもこうした状況の中で十数年の店の歴史に幕を閉じてしまった。痛恨の極みである。

執筆者紹介

大友浩平 (おおともこうへい)
奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。
「東北ブローグ」
http://blog.livedoor.jp/anagna51/



Facebook
https://www.facebook.com/kouhei.ohtomo

持ち帰りに酒類を販売するために「酒類小売業免許」が別に必要なのだが、これは既存の酒類小売業の店(要は酒屋)と競合することになるため、飲食店にはなかなか付与されなかった。来店者数が減ったことにより、飲食店はお客に提供するために仕入れていた酒類の在庫を抱え込むことになってしまった。提供できる見込みもなく、消費期限だけがどんどん近づいてくる。とりわけ深刻なのは、樽生のビールである。一旦開栓してしまうと概ね一週間以内に消費しなければいけないが、このご時世で一〇から二〇リットルもの量のビールを空にするのは並大抵のことではない。消費しきれなかったビールは廃棄を余儀なくされることになる。飲食店にとっては痛いダメージである。

速報値だが、四月一〇日から五月二九日までの間に全国で二万二千件近くの免許が付与された。東北六県で見ても九六〇件付与されている。それこそ、藁をもつかむ思いで申請した飲食店も多かったのではないだろうか。

消費者にとってもあるメリット

この期限付酒類小売業免許を取得する飲食店が相次いだことは、消費者である我々にとってもメリットがある。今まで、行きつけの店や馴染みの店を支援したくても、感染拡大への対応との兼ね合いでなかなか店での飲食は難しいというジレンマがあったわけだが、この期限付酒類小売業免許の取得によって酒類のテイクアウトが可能になれば、店内で飲食はできなくても家で購入した酒類を持ち帰って家で楽しむという形で店の支援をすることができるようになるからである。

クラフトビールがあったりする。そうしたビールを持ち帰って家で楽しむことができるというものは、今までになかったことである。ただ、樽生ビールをテイクアウトする際に注意すべき点がある。持ち帰りに用いる容器が必要になるわけだが、これはよくあるステンレス製の水筒は使えないということである。元々これらの水筒は炭酸飲料やスポーツドリンクなどには使えないと記載されているのだが、もし入れてしまった場合、炭酸によって内圧が高まることによって蓋が開かなくなったり、開けた途端中身が飛び出したりということがある。

同様に家でその店の料理とビールを楽しむことができたりもする。「美味しいビールを出すお店は料理も美味しい」というのが私の経験則だが、今回のこの措置によって、その美味しい料理と美味しいビールのマリッジが、テイクアウトでも可能になったというのは嬉しいことである。

観光地をまずは地元が支える

もう一つの観光業についても、厳しい状況が続いている。例えば、宮城を代表する観光地、日本三景の松島では、昨年二六万四千人訪れたGWの観光客が、今年には千人だったという。首都圏などからの観光客が多かったようで、県境をまたいだ移動の自粛の影響を直に受けた形である。緊急事態宣言が解除された後もやはり客足は戻っていないようである。今も休業している宿泊施設や土産物店も多い

うである。恐らく、首都圏からの観光客が早期に増えることは期待できないと思われる。さらに言えば、いまだ毎日新規感染者が確認されている東京など首都圏から観光客が訪れることに抵抗を感じる地元の人もあるかもしれない。そう考えると、早期に他地域から観光客を呼び込むのは難しいのではないだろうか。

北六県では新規感染者が確認されていないが、だからと言って一足飛びに県外へ移動することは今なお抵抗のある人も少なくない。自分たちの住む地域にある観光地を訪れてみてはどうだろうか。目的地まで移動し、綺麗な景色を見、美味しいものを食べ、可能であれば宿泊もし、土産物を買うことは、苦境にある観光業に携わる人々への支援にもなり、身動きが取れず鬱々とした気分を蓄えていた自身にとっても気分転換になる。大いにお勧めしたい。



グラウラーを使うと樽生ビールをテイクアウトできる

観光業に従事する方々にもぜひその目線で観光地の魅力を再発見できるように情報発信をお願いしたい。今回のこの新型コロナウイルスの感染拡大がもたらしたものはいろいろあると思うが、その一つは、自分たちの地域に対する目線の重要さではないかと思う。観光においては、いかに訪日外国人観光客を呼び込むか、という目線ばかりがクローズアップされ過ぎてきた



アヤメ



コデマリ



キシヨウブ

シリーズ 遠野の自然

「遠野の芒種」

遠野 1000 景より

当記事執筆中も、岩手県は相変わらず新型コロナウイルス感染症の更新を継続中。ことここに至ると、何としても感染者を出してはならないという緊張感が県内を覆い尽くしているだろうと思う。

最初の感染者の一人になったら、あるいはイベントで最初の感染者を出したらどうしようかと心配するあまり、大分先のイベントも中止する事態とならないように祈るのみである。なんとも同情のしようがない。感染者だらけの東京はその点で気楽だ。十九日からは第三ステップに進むが、また感染者が増えてきた。こんなときは、花を愛でて緊張を和らげよう。



ハマナス



カキツバタ



フジの花



ヤマシャクヤク



シャガ

人口減少して東北の未来はない 東北人口増大策の提言

このまま衰退を続ける老人大国の東北、そしていつかは老人もいなくなる東北でほんたによいのか？

東北の人口減少は国内トップ独走

世の中は新型コロナウイルスで、すべての関心がそこに向けられている。しかし、東北はもともと前から起きていた重大な課題を忘れてはいけない。下の囲みはほぼ一年前の日経新聞の記事だが、それを見ると、もう苦笑いしてやり過ぎるレベルではないことを考えて欲しい。東北は全国の人口減少の最先端を突っ走っており、ダントツの一位である。もうとくに、東北六県の共通課題として各県知事はじめ、幹部たちが寄り集まって、政府などに頼らず、この課題の解決策を真剣に

話し合い、早急に対策を打たなくてはならないレベルを通り越している。

しかもこの記事を読む限りでは、人口減少はますます加速しているようにも読める。もしそうならば、新型コロナウイルスのインパクト以上の悲惨な状況下にあることを肝に銘じてはならない。

東北の未来図は、過疎どころか、「無人地域の増大」ではないのかとの危惧さえけつて誇張とは言えない。

新型コロナウイルスを恐れ他県来訪者排除するな
そういう状況下にあるながら、新型コロナウイルス感染を恐れるあまり、東北の一部では、他県ナンバーを見つけては嫌がらせをしたというニュースを見た。まことに情けない事態である。そんなことをしている余裕があるのかと言いたい。この点では、東北は沖繩に見習うべきである。

なぜなら、沖繩では新型コロナウイルス感染者の出始めの時期、他県からの観光客に沖繩に来ないで欲しいとメッセージを発したが、しかしこれは、爆発的に感染者が増える病院に収容できないので来ないで欲しいと言ったのであって、感染を恐れるあまり二度と来るなどといったわけではない。

その証拠に自粛期間が終わったら、受け入れを再開したではないか。こうした変化が東北では

見られたであろうか。筆者も東北出身者であるが、東北の根深い排他性を見せつけられたようで情けない。

人口減少を続ける地域には未来はない

どんなに地域のインフラを整えても、人口が減少し続けるのでは、インフラの意味などない。

また、人がいないところでは、文化の継承もないし、文化は途切れてしまい、英永遠に埋もれてしまう。未来も過去も、何も無くなるのである。そうしたことを真剣に考えなければならぬのに、そうした試みは残念ながら筆者の耳には届いてこない。

自分たちの世代で、東北を終わらせて、もしくは終わる方向に進ませたいのだろうか。

極端な排他性は傲慢

田舎の間は排他的だと言われるが、いつの時代も、どの地域でもそうではないと思う。

他県からの、あるいは外国からの来訪者に歓迎の意を表する地域はある。それは観光地でなくともそうである。

この東北も、いつの時代も排他的だったであろうか。現代の東北人ではなく、先人たちが排他的だったであろうか。そうではないと思うのである。

人口が減少していくこととこの排他性はリンクしているのではないかと密かに思っている。

少子高齢化は老人のわがまま

先ほどの記事にもあるように、東北の人口減少は少子高齢化とリンクしている。往々にして、高齢になると精神も硬直化してくる。「自分流」を頑なに貫き、変化を排除し、排他的になりがちだ。

お叱りを覚悟で言うが、この人口減少と少子高齢化に何の発言もしない高齢者、自分たちの代で人口減少が進もうが関係ないと思っっている高齢者がいたら、彼らを傲慢と呼ぼう。

東北はいまの高齢者だけのものではない。先人たちが営々として築き上げたものである。それを自分たちの代で台無しにすることは許されないと思うのである。また高齢者に限らず、精神的に硬直している若い世代もそうである。

単純な移住政策では人口は増えない

政府の地方移住促進キャンペーンがあるが、それが功を奏して人口が増えたという話は聞いたことがない。なぜ増えないのか。増えない理由があるはずだ。

筆者も経験があるが、東北の田舎でよく他県からの来訪者に言う言葉がある。「ここに住んでからモノ

を言え。「よそ者にあれこれ言われたくない」など。自分たちが暮す場所が自分たち専有のものであるという思い上がりが見られていて鼻につく。こんな言葉を投げつけられて、東北に移住したいと思う人間はいない。だから移住が増えないのだ。

今後は、東北の各地に、こうした田舎の排他性から隔離できるエリアを設けて、東北の良いところだけを先に楽しめる場所を作ること提案したい。

そして移住でなくとも良い。仮住まいでもよし、長期観光でもよいのだ。このようにもっと柔軟に他地域からの受け入れを考えないと、ほんとうに「無人東北」に向かってまっしぐらとなることは必至である。

総務省が10日発表した住民基本台帳に基づく2019年1月1日時点の人口動態調査によると、東北6県の人口(外国人含む)は前年比0.94%減の884万2608人だった。青森、岩手、秋田、山形の4県が減少率1%を超え、全国のなかで東北の減少幅が一段と拡大している。(途中省略)日本人の人口減少率を都道府県別にみると、最も高かったのは秋田(1.48%)で、2位は青森(1.28%)、3位に岩手(1.17%)が続いた。5位に山形、7位に福島が入った。全国で減少率が高い上位10県のうち5県を東北勢が占めている。6県合計でみると、1年間に8万8580人が減った。減少数は前年より5千人増えた。出生数から死亡数を差し引いた「自然増減」の減少率が全国1位は秋田で1.03%だった。3位の青森(0.78%)、4位の岩手(0.78%)、5位の山形(0.76%)が上位5県に入った。少子高齢化に伴う自然減が減少幅を拡大した。(途中省略)市町村別の減少数が最も大きかったのは青森市の3094人。2位が福島県いわき市の3065人、3位の秋田市の2711人と続いた。一方、外国人の人口は増えている。東北6県の外国人数は7.9%増の5万9229人だった。増加数が最も多かったのは福島で1263人。宮城が1084人と続いた。最も少なかったのは秋田の171人だった。各県で増加を後押ししているのが外国人労働者だ。東日本大震災で被災した沿岸部の水産加工では人手不足が深刻で、外国人の採用数が急増している。

『東北、人口の減少幅拡大 秋田・青森など4県1%超』
(日本経済新聞 2019. 7. 10) 記事より抜粋、赤字は筆者

市町村別減少TOP5

日本人の人口が減った市町村		
	市町村	減少数(人)
1	青森市	3094
2	福島県いわき市	3065
3	秋田市	2711
4	青森県八戸市	2458
5	福島市	2273

時代遅れの虚構中央集権からの脱出 再び、東北州を目指そう！

新型コロナ禍でまったく機能しない中央集権行政 いまこそ地方州に大幅な権限移譲を実施すべし

新型コロナ対応のあまりのひどさ

まだ新型コロナ感染が完全に収まったわけではないが、ここまでの新型コロナ行政を振り返ってみると、あまりのお粗末さに呆れかえるばかりである。

初動対応からしておかしい。横浜に停泊していたクルーズ船での対応は、単純なミスという域をはるかに超えている。管轄の厚生労働省職員は、防護服も身に着けず、普段のスーツ姿だったようだ。

他の省ならまだしも、管轄の省職員がこれでは、この問題が終わるまでずっとこの調子であろう。専門家会議という臨時に

中央集権体制は虚構にすぎない

強力な軍事態勢で国民を支配して有無を言わせない古代の中央主権体制を夢見るかのように、子供じみた権力欲に取りつかれ、振舞っているように見えるが、この現代にそうした妄想は害あって益なしである。

もう時代遅れ発想も甚だしい。こんなことが許されているのは主要国では日本だけではないのか。

どの国でも、国民により身近な地方にちゃんと自治権があり、どうしても国家

設置された委員会の任務が何なのか、いまだに分らないことも同根の問題。

国民に感染の状況やウイルスの感染はどう防ぐのかとか、発生状況がどうなっているのか、ワクチン開発の状況はどうなっているのかとか、詳細に伝えてくれると期待するのは当然だが、いまだ納得できる説明はなく、出てくるのは、突然の八割接触削減要請など。

こうした一連の対応を見ていると、国民は何も知らなくともよい、すべて任せて、従っていけばよい、適宜出す中央からの指令と指示に従ってくれとの意思が読み取れるが、その実まったくやれていない。無様な対応であり、とても信頼に足るものではない。そこに国民の生命を預けよというのとはとても納得のいくものではない。

道州制を勝ち取ろう

最近はずつかりなりを潜めてしまったが、もう一度道州制論議を復活させよう。

実行寸前まで行ったのだから、構想をまとめ上げるのにはそんなに時間はかからないだろう。

それをなるべく早く実施に移して、偽の中央集権体制を破壊して、まともな国になろう、そしてまともな東北になろうではないか。

お仕着せの道州制ではなく、東北から発信する「東北州」を実現しよう。

政府の新型コロナ禍対応

新型コロナ禍後は強力な地方自治を！

このように、現実としては偽の中央集権体制がはびこっているが、誰が何と言おうと、もう地方自治権限を強化するのは当たり前の時代である。

感染者数も大きなばらつきがあるにも関わらず、全国一律に、感染防止のために家に閉じこもる自粛を要請するなど、思考回路が狂っている人間のすることであり、とても一国のリーダー、もしくはそのサポーター部がすることではない。

論評するにも値しない。

新たなリーダー群養成の機会に！

ついでに、一国のリーダーを選出する方法もこの際改めた方がよい。

世襲制でもあるまいし、親から子へ、孫へと引き継ぐ国会議員の中から、何をすべきか分からない一国のリーダーを選出するのは、各州のリーダーの中から、国のリーダーとサブリダーを選出する方式に改めればよい。そうすれば、州レベルで実力が確認できるので、力量のまったくないリーダーが選出される過ちを防止できる。

県境見直し

さらについでに、明治時代初期からの県境区分も見直す。

江戸時代から明治になって、藩から県に組み換えが行われたが、特に東北は、奥州列藩同盟のせいで賊軍とされた同盟による戦争を仕掛けたため、昔から仲の良くない地域を同じ県に組み入れるという見せしめ区分を行った。

そのため百五十年も経つたいまでも県内で何かといえ争いを起こす県もある。これを元の藩の区分けに戻すべきだ。

二度と東北が一致団結して、令和の奥州列藩同盟体制を組んで政府に楯突こうとしないようにとの心配は

もう必要ない。無用な遺物は捨て去ればよい。

州・県・郡・市町村という枠組みも見直し

県の上に州を設置するのはさらに運営がややこしい。ここは思い切って行政を最大限にシンプル化しよう。

県を失くし、州の下に、かつての藩に相当する行政区分を設置してはどうか。

県が数個の藩になるイメージである。出来るならば、かつての藩も復活させよう。同じ歴史を数百年も共有しているのだから好都合である。かつての町名も復活させればよい。

そうすれば、州と藩というシンプルな構造になるので効率が良いのではないかと。平成の大合併よりもっと効果的なのではないか。

過疎化対策ももっと仕掛けが大きくできるようなるので、好都合ではないか。

今後は地域が歴史を共有する母体となる

最近、地域の活性化はその地域の歴史を共有するところから生まれるという思いを強くしている。

東北州実現の際には、ぜひ、この歴史を共有できる地域区分と政策を積極的に仕掛けて欲しいと願う。

もう必要ない。無用な遺物は捨て去ればよい。

州・県・郡・市町村という枠組みも見直し

県の上に州を設置するのはさらに運営がややこしい。ここは思い切って行政を最大限にシンプル化しよう。

県を失くし、州の下に、かつての藩に相当する行政区分を設置してはどうか。

県が数個の藩になるイメージである。出来るならば、かつての藩も復活させよう。同じ歴史を数百年も共有しているのだから好都合である。かつての町名も復活させればよい。

そうすれば、州と藩というシンプルな構造になるので効率が良いのではないかと。平成の大合併よりもっと効果的なのではないか。

過疎化対策ももっと仕掛けが大きくできるようなるので、好都合ではないか。

==== DVD 広告 【涌谷 7000年の歴史】 ====

宮城県北部にある小さな田舎町である涌谷町。しかしこの町は古代史研究にとって非常に興味深い町でもある。日本古代史の激動の時代の痕跡がいくつも残っている。それを再発掘した映像のDVDを紹介。



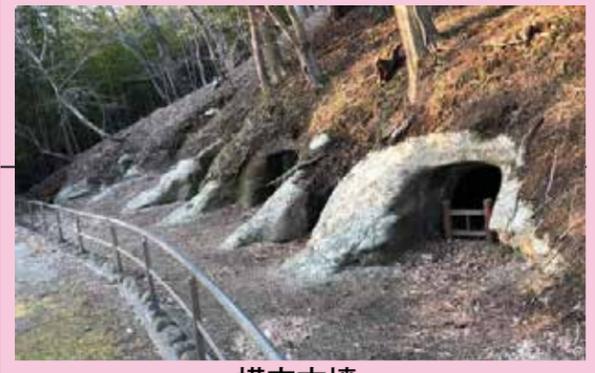
【涌谷 7000年の歴史】

涌谷町には実に7000年の歴史がある。この長い歴史を代表的な5つの歴史遺産であらわし、地元涌谷高校生4人が文化財保護職員のリードで学習していくプロセスを撮った映像。深く学習していくにつれ町の歴史という枠組みを飛び越え、日本という国家が出来ていく古代の激動の真ただ中にタイムスリップしていく。映像は117分の長編。

DVD 販売中 3300円(税込)
送料無料 問合先: 株式会社遊無有
mail: y.s.yumuyu@ozzio.jp



長根貝塚



横穴古墳



日本初の産金